

前期終業式 式辞

4月の始業式では、大谷選手の話为例に、夢を叶えるためには「どうせ無理」ではなく「どうすれば」を追求することが大切というテーマで話をしました。

前期を振り返ってみて、みなさんの活動を見させていただき、多くの場所で自分自身をしっかりと表現し、夢と希望を追い求める姿を見させていただきました。そのたびに、力をもらいました。皆さんの中には、具体的な夢や希望をイメージすることができず、また言葉にすることない人もいるかもしれません。しかし、今この時間を精一杯、前向きに過ごしているならば、自分の未来を切り開いていることは確実です。そして、その姿は見ている人に希望を与えます。

7月21日、本年度1回目のオープンハイスクールが開かれましたが、中学生と保護者が約600人来校しました。私がかつて勤務していた5年前は、参加者数が250名でしたので、この数字の多さに驚かされました。この数字の変化は、わたしが本校を去り、その後3年の間、生徒の皆さんそして先生方が希望に満ちた教育活動を実践してきた結果の表れです。そして、多くの中学生の注目を集めることになったのだと思います。前期に皆さんの活動を見させていただき、このことを確信しました。

本校は「多様性」を尊重する学校です。ですから、入学するまでの事情は様々です。中学時代、日々の生活に苦しみ、将来に希望を持てなかった生徒もいるかもしれません。そして、同じような思いで毎日を過ごしている中学生がいるのではないかと思います。しかし、皆さんが日々部活動に情熱を燃やし、学校行事を楽しみ、勉学にも向き合う、また新しい友人ができた、アルバイトに忙しかった、毎日受験勉強ばかりしていた、就職試験に向けて企業見学に行った等、その姿全てが中学生に希望を与えます。オープンハイスクールに来た中学生の中には、皆さんの笑っている姿を見るだけで、「私にもいつか笑える日が来るんだ」と希望を持った人がいるようです。オープンハイスクール後の参加者アンケートを見て、そう思いました。

4月にもお話ししましたが、苦しいとき、辛いとき、挫けそうになることもあるかもしれません。そんなときは、立ち止まって考えてほしいのです。「人生は、今が始まり」です。そして、自分の存在そのものが、周りの人に影響を与え、時に希望と力を与えることがあることを忘れないでください。

香風高校に入学した以上は、夢と希望を追い求める高校生であってほしいと思います。今日お話ししたことを参考にし、後期も実りある高校生活を送ってくれることを願っています。

令和5年9月22日

兵庫県立西宮香風高等学校長

桑田 圭介